

鈴木敏恵の知の対談

明確なゴールで成功する！ 国際企業人 関根 せきね ひであき 秀昭氏(日本IBM理事)

“一番大事なことは何?!

So What” で、自分の考えを言える人間を育てる！



鈴木 敏恵 (すずき としえ)

未来教育デザイナー・一級建築士・千葉大学講師。21世紀の教育を実践する第一人者。『次世代IT活用未来型教育研究委員』文科省・総務省連携、『中央防災会議専門委員』内閣府等公職歴任。島根県立看護短期大学客員教授就任。

<http://www02.so-net.ne.jp/~s-toshie/>



関根 秀昭 (せきね ひであき)

日本IBM株式会社 理事。米国シカゴ大学経営大学院卒。各種営業系マネジメント職を経て日本IBM及びIBMアジアパシフィックのラーニングサービス事業部ジェネラルマネージャーを務め、2003年1月からアイ・ビー・エム ビジネスコンサルティング サービス株式会社 パートナー ラーニング・ソリューション担当、今日に至る。eラーニングを含むラーニング事業の責任者。専門領域は人材開発とラーニング戦略。

■企業も学び続ける

鈴木 関根さんと一緒に学校の情報化の仕事をしたのは15年以上も前になりますね。いまはどんな仕事をされているんですか。

関根 ラーニング アンド デベロップメント、これはコンサルタント指導のラーニングビジネスなんです。これからは企業も行政も将来の明暗を左右するところにラーニングが入ってくるのですよ。この時代は、学習する企業、学び続ける企業である必要があるのです。

鈴木 「学び続ける」 っていうのは、新しいものを吸収し日々成長する謙虚さでもありますよね。学習する企業の目的は何ですか。

関根 ひとことではいえない、自立した人を育てることです。会社から与えられたものをやる受動的な人間ではダメなんです。

鈴木 学校も同じですね。与えられた学びでなく自ら学ぶ力を身に付ける必要があります。時代はどんどん変化していますからね。

関根 もし学校や教育が変わっていないとすれば、それは後退しているんですよ。世の中は動いているんだから。

■モチベーションこそが大事

鈴木 自立した人って自分の頭で考えることができる人ですよ。そのために一番大事なこととは何だと思えますか？

関根 人間って動機が必要でしょ。学習もそうよね。動機付けして、納得して、実践するっていうサイクルがいちばんいい。

いい仕事をしたら表彰するとか、顧客が喜ぶとかいった動機付けがあつて、それが感動になつてまたやる気になる。でも学校教育は、モチベーションにつながる感動や意欲を与えずに知識だけをばつと与えるだけでしょ。それじゃやる気が続かないでしょ。

鈴木 そうですね。それをしたい、っていう意欲が大事ですよ。それにもともと、人間て誰もが成長したいっていう素晴らしい本能にも似た何かをもっていると思う。それだけじゃない、獲得した知識で役に立ちたい、社会に貢献したいという気持ちさえ持っている。その気持ちを活かしたのがプロジェクト学習なんです。人は誰でも学びに喜びをもつように出来ている素晴らしい存在なんだと思う。

■数字じゃなくても「学びの成果」は見える！

鈴木 でもそのためには、やっぱり「よりよく変わりたい」というビジョンがいる。人の胸に、どう変わりたいかっていうビジョンやゴールが明確にいるってことですね。最近では学校も変わろうという動きも広がっているけど、そのゴールは曖昧さがあると思う。教育や学校が変わるにはどうしたらいいんだろう。

関根 原理原則が大事でしょう。まず「何のための学校か」ということです。その上で学校のミッションとかビジョンといったことね。それは地域とかによって違うだろうし、小・中・高と学校によっても位置づけは違うでしょう。学校が一つの経営体とすれば、何を具体的に目指しているんだろう、まずこの目標を明確にする必要があるだろうね。そして、to be modelつまり何年後にこういうものを目指します、という明確なゴール設定と評価規程が大事だね。それは目に見えなくちゃだめなんだよね。いまある学校の目標じゃ、何がどう達成したのかわからないよね。数字設定するのはいけないのかもしれないけど、みんなが共通して理解できる何かがあるよね。

鈴木 学校教育や学習の向上を評価したいなら、数字じゃなくてもいいかもしれないね。目で見ることで、手が触れることができるもの、子どもが何か価値ある成果を生んだとことがわかる確かなものがあるからね。その一つがポートフォリオ。そこには誰が見ても明らかなエビデンス(証拠)が入っています。数字はなくても明らかに子どもの成長や変化が見えます。

関根 いいね。大事なことは数値そのものじゃなくて、具体的に明快で共通理解できるといふことだから。

■いい大学入って So What?

鈴木 ところで、関根さんは社会で学生を待っているお立場ですよ。学力についてはどう思いますか？

関根 基礎学力はなきやいけないんだけどさ、学力があり、いい大学入ったってね。いま、So What だよ。いまは、その人の

うし、小・中・高と学校によっても位置づけは違うでしょう。学校が一つの経営体とすれば、何を具体的に目指しているんだろう、まずこの目標を明確にする必要があるだろうね。そして、to be modelつまり何年後にこういうものを目指します、という明確なゴール設定と評価規程が大事だね。それは目に見えなくちゃだめなんだよね。いまある学校の目標じゃ、何がどう達成したのかわからないよね。数字設定するのはいけないのかもしれないけど、みんなが共通して理解できる何かがあるよね。

鈴木 学校教育や学習の向上を評価したいなら、数字じゃなくてもいいかもしれないね。目で見ることで、手が触れることができるもの、子どもが何か価値ある成果を生んだとことがわかる確かなものがあるからね。その一つがポートフォリオ。そこには誰が見ても明らかなエビデンス(証拠)が入っています。数字はなくても明らかに子どもの成長や変化が見えます。

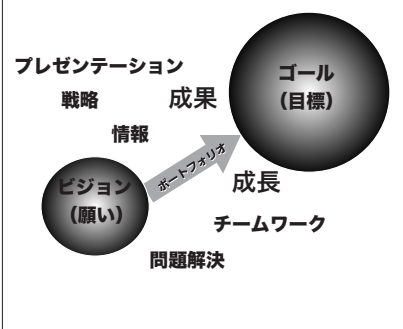
関根 いいね。大事なことは数値そのものじゃなくて、具体的に明快で共通理解できるといふことだから。

鈴木 ところで、関根さんは社会で学生を待っているお立場ですよ。学力についてはどう思いますか？

関根 基礎学力はなきやいけないんだけどさ、学力があり、いい大学入ったってね。いま、So What だよ。いまは、その人の

プロジェクトとはゴールを目指すもの

プロジェクト・・・それはある目的を果たすための「構想」や「計画全般」を指す。それはビジョンを描き、そこへの「到達方法」を構築し、ゴール達成にいたるすべてのプロセスを俯瞰することなしにはありえない。また部分や単発で終えたり、個人で終結することなく、互いの力を活かし合う「チーム」と「フェーズ(局面・段落)」で進行する「一定の継続的な時間」がある。プロジェクトは「成果」をあげることを前提とする。



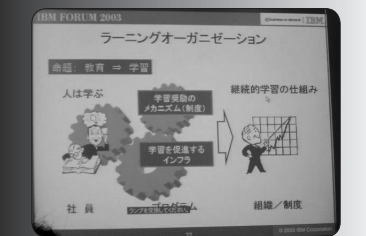
知のシェア～未来型オフィス これが最先端のグローバル企業だ！



オフィス
机の上には書類や電話など一切ない。各自が自分のPCを持ち、プロジェクトメンバーの変動に合わせて集まりやすいところへ移動する。プリンターは使わずお互いのPCをつなぎ、情報を共有する。



会議室
会議参加者の思考がビジュアルで共有できる3つのスクリーンが正面に。天井にはプロジェクタ、テーブル中央に各自のPCにつなげるコネクタが装備されて



映し出されたプレゼンテーション用資料。学習する企業のイメージ図。

(東京・丸の内ビルディング内のオフィスにて)

実績や実力の時代でしょ。何より自分で考え目標達成できる人が求められているよね。

鈴木 自らに So What って問うと「一番大事なことは何なのか」が見えてくる。プロジェクト学習ではその力がつくんです。そのためには、自分の頭で考え、自分で価値を感じているゴールへ向かう強い気持ちをもてることがすごく大事。そして、他者からの評価がどうであれ、人はみな成長したいという本能をもっているから、自分で自分の仕事やしたことを見て、明日はもっとよくしようとする。これは個人でも学校や企業という組織でも同じです。ゴールに向かつて「そこへ行くぞ!」ということ、それがプロジェクトっていうこと。

■グローバル時代だからこそ、自分の考えをもとう！

鈴木 じゃあ、コミュニケーション力についてはどうお考えになつてますか？

関根 コミュニケーションっていうのは、状況や相手によってやり方も言葉も変えなきゃいけないよね。この間も20カ国から集まった会議があつて、シンガポールの人も中国の人もみんな言うよね。アメリカ人はとにかく話すよ。日本人は表現が下手だよ。英語が出来ても積極的なものごとを言わない。言わなくちゃだめなんだよね。国際会議ではルールがあつてね、とにかく発言するんだ。そのために集まっているんだから。

鈴木 ところで、関根さんは社会で学生を待っているお立場ですよ。学力についてはどう思いますか？

関根 基礎学力はなきやいけないんだけどさ、学力があり、いい大学入ったってね。いま、So What だよ。いまは、その人の

鈴木 語学やプレゼンテーションスキルも大事だけど、「どうしても自分の考えを伝えたい!」という願いがその原動力だね。

鈴木 21世紀はいままでとまったく違う時代。そこには前例も正解もない。先輩や上司がすべき仕事を与えてくれるところじゃない。自分で状況を見て、課題を発見し、目標を決めてそこへ向かっていく力が必要でしょう。目標を決めてそこへ向かうプロジェクト学習は手ごたえのある成果をあげます。その成果は自信につながりますよね。

関根 そうだね。自分なりの目標を達成できたとき人間は心から嬉しいものだし。誠実に努力をし、自分の目標を達成し、正當に社会から評価される、それは生きがいになるよね。

鈴木 本当に関根さんから学ぶこと、多いです。人は、教科書からも人との関わりからも成長するけど、でもがんばった自分が生んだ成果こそが、高い明日へ自分を連れていってくれる、私は自分の経験で確信しています。

部下から報告を聞いたあとに関根さんは、必ず「So What」と問う。So What は、辞書に【反答。だからどうしたのかね」と問うこと】とある。一言言いたいことは何なのかと、相手の考えの本質をつく追求にも似た一言。

意志ある学びの鍵がここにある。

次回対談予告 (第6号) 先生も成長する!新しい学校経営

大阪初の「中絶」先生

(大阪府立芦間高等学校長)

21世紀エデュケーションモデル case 5 プロジェクト学習の「題材」決め！

プロジェクト学習

総合的な学習の「題材」の決め方

～まず「どんな力をつけたいのか」から始めよう！～

＜未来教育プロジェクト学習＞は、自分の頭で考え目標達成できる力がつきます。また、どんな題材でも共通して【イメージする力】【課題発見・解決力】【コミュニケーション力】【自分の考えを言える力】など 21 世紀を生きる力がつきます。さらに、その題材ならではの「身につく力」があります。それらをはっきりさせてスタートしましょう！ 以下に全国で実践されたプロジェクト学習を紹介します。

＜未来教育プロジェクト学習＞は、意志ある学びです。意志ある学びのためには「意欲」が不可欠です。意欲とは、心惹かれそこに注意を向け進んでしようとする心の働きです。その心の働きが成長に必要なのです。だから、そういう気持ちになる「題材」を決めることが大事なのです。学校全体で大きなビジョンを持ち、学年に応じた「題材」を先生がはっきり決めることが総合的な学習の成功の秘けつです。

鈴木敏恵



■＜未来教育プロジェクト学習＞のいろいろな「題材」と「ゴール」の例

「題材」 防災・地震

プロジェクトのゴール（目標）
成果物 「地震対策知恵集」を作る！

プロジェクト全体のテーマ（願い）
災害につよいまちを作ろう

ポートフォリオ

「身につく力」
自助力・防災スキル

チームのテーマ例
・災害時の応急手当について提案する
・学校で地震が起きたときどのように行動したらよいのか提案する
・地域の住民が安全に行動するための避難路を提案する
・災害時に幼児や高齢者の手助けをすることを紹介する
・災害時に必要な食糧を提案する
(岐阜県中学校 3 年ほか)

「題材」 国際貢献

プロジェクトのゴール（目標）
成果物 「おとなにも子どもにも役にたつ国際貢献ハンドブック」を作る！

プロジェクト全体のテーマ（願い）
わたしたちにできる国際貢献をしよう

ポートフォリオ

「身につく力」
貢献心・違いを受け入れ尊敬する心

チームのテーマ例
・国際協力のいろいろな見方や考え方の違いなどを紹介する
・どんな国にどんなものが役立つ提案する
・その国に行かなくてもできるボランティアを提案する
・お金でなくてもできる国際ボランティア活動を提案する
・いろいろな募金の方法を提案する
(愛媛県小学校 6 年)

「題材」 森林公園

プロジェクトのゴール（目標）
成果物 「ユニバーサルデザインの森林公園にするための提案書」を作る！

プロジェクト全体のテーマ（願い）
みんなが安心して楽しめる森にしよう

ポートフォリオ

「身につく力」
人や自然に対する敬意

チームのテーマ例
・目の不自由な方にも裏山の四季を感じてもらえるコーナーを提案する
・車イスの人でも、通りやすい道とはどんなものが提案する
・みんなに喜んでもらうために、どこにどんな植物があればいいか考えて提案する
・小さい子が虫や生き物を発見できることを提案する
・お年寄りが休めるベンチを提案する
(高知県小学校 4 年)

「題材」 食・健康

プロジェクトのゴール（目標）
成果物 「食のハンドブック」を作る！

プロジェクト全体のテーマ（願い）
安心して健康な食生活を実現しよう

ポートフォリオ

「身につく力」
自分を意識する力・実践力

チームのテーマ例
・家庭でも食中毒を簡単に予防できる方法を提案する
・好き嫌いの多い小学生に野菜をおいしく食べられる方法を提案する
・からだの弱い人や老人に、体にいい食べ物の見分け方を提案する
・インスタント食品に足りない栄養を簡単に取る方法を提案する
・時間のない人でも朝食を食べられる方法を提案する
(鳥根県小学校 6 年ほか)

「題材」 テレビ

プロジェクトのゴール（目標）
成果物 「テレビの見方・生かし方マニュアル」を作る！

プロジェクト全体のテーマ（願い）
よりよいテレビの見方・生かし方を広めよう

ポートフォリオ

「身につく力」
情報に流されず見極める力

チームのテーマ例
・目が悪くならず健康を保ち、楽しくテレビが見られる秘けつ
・CM を、だまされず上手に見るためのひけつ集
・忙しい人のためのオススメ料理番組の選び方
・サッカーが上手になるためのサッカー番組の見方・生かし方
・目的別英語番組の見方
(千葉県小学校 6 年)

「題材」 ケータイ

プロジェクトのゴール（目標）
成果物 「ケータイマニュアル」を作る！

プロジェクト全体のテーマ（願い）
人々を危険から守り、よりよい情報社会を実現しよう

ポートフォリオ

「身につく力」
情報活用力・自己判断力

チームのテーマ例
・市民生活を向上させるケータイ活用法を提案する
・ケータイ情報と他のメディアを比較し、より確かな情報を得る方法を提案する
・未成年者がケータイ犯罪や危険にあわないための対策を提案する
・犯罪や危険性を調べ、身を守るための手段を提案する
・価格のしくみを探り、よりよい購入法を提案する
(神奈川県中学校 2・3 年)

『題材』決定…5 つのチェックポイント

- ☐それは、学習者にとって「自分ごと」になり得るか？
- ☐それは、学習者が聞いたり、話したり、見たり、手にしたり、経験したことがあるものか？
- ☐それについて「よくなったらいいな」という気持ちを多くの人がもっているか？
- ☐そのことについて、大切と感じている人、怒ってる人、困っている人、喜んでいる人がいるか？
- ☐そのことについて協力してくれるであろう「詳しい人」や「機関・施設」が思い浮かぶか？

知と心を育てる未来教育シリーズ

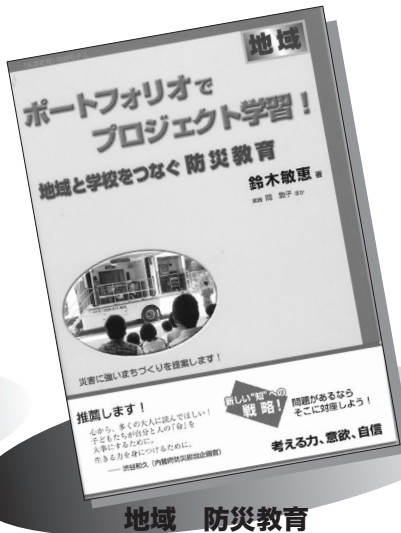
「総合的な学習」の切り札！

はじめての先生もすぐに「プロジェクト学習」と「ポートフォリオ評価」ができる！

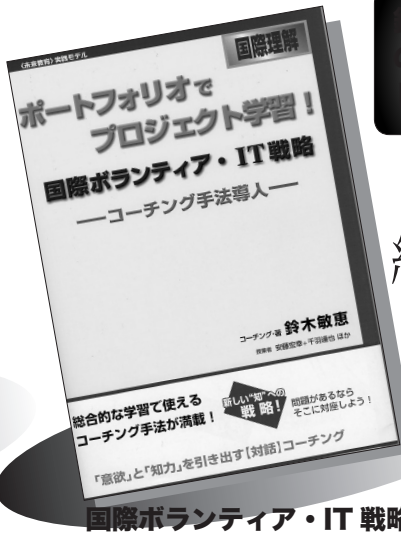
授業ですぐ使えるグラフや資料がぎっしり！



メディアリテラシー ケータイ



地域 防災教育



国際ボランティア・IT 戦略

鈴木敏恵プロデュースのポートフォリオシートを使った実践です！

絶賛発売中！

鈴木敏恵・著
各 2,200 円（税込）

＜未来教育＞実践モデル

ポートフォリオでプロジェクト学習！

お問い合わせは TEL 03-3971-5151
教育同人社